ながい　たまも
永井　玉藻 さん

## 大学院（博士課程）留学

**2002年3月**　東京都立芸術高等学校卒業　音楽科
**2002年4月～ 2006年3月**　桐朋学園大学　音楽学部 作曲理論学科 音楽学専攻（学士号（音楽）取得）
**2006年4月～ 2008年3月**　慶應義塾大学大学院　文学研究科 美学美術史学専攻前期博士課程（修士号（美学）取得）
**2008年4月**　慶應義塾大学大学院入学　文学研究科 美学美術史学専攻後期博士課程
**2009年9月**　Universite Paris-Sorbonne Ecole Doctorale 5 Musique et Musicologie　学位取得留学
**2015年3月**　慶應義塾大学大学院　単位取得満期退学 美学美術史学専攻後期博士課程
**2015年10月**　Universite Paris-Sorbonne Ecole Doctorale 5 Musique et Musicologie　学位取得留学（博士論文提出による Doctorat（博士号）取得）

**帰国後**

**2016年1月から2020年3月まで**
公益財団法人東京フィルハーモニー交響楽団にて、オーケストラの公演に必要な楽譜の管理などを行うライブラリアンとして勤務。
**2016年4月から2020年現在**
慶應義塾大学、白百合女子大学、武蔵野音楽大学非常勤講師。

研究対象の作曲家の姪御さんと

# パリで フランス音楽研究

### 本場の空気に触れるために

学部生のころから留学に対する憧れをぼんやりと持っていたのですが、博士課程進学を機に、専門とするフランス音楽の研究を進めたいという気持ちが強くなりました。クラシック音楽はもともと西洋の芸術ですので、ヨーロッパの図書館や資料館には研究のための資料が豊富にあります。そうした資料を集中的に調査するには時間もかかるので、現地に長期間滞在する必要性も感じていました。周囲の先輩方や先生方にも留学経験者が多く、後押しをしてくださったこともあり、私自身も、本場の環境で研究してみたいと思い、留学を決断しました。

### 留学までの道のり

留学先のパリ第 4 大学は、音楽の理論・歴史研究の長い蓄積と実績があり、これが学校を選ぶ決め手になりました。また、パリには貴重な資料を所蔵している図書館や資料館が多いので、研究を進める環境としても最適でした。フランスの大学に学位取得目的で留学する場合、登録に必要な書類が受理されれば入学が決まりますが、私の場合、大学に書類が受理されたものの入学許可証がなかなか来ず、事務局へ問い合わせて入学許可証を入手しましたが、フランスでは日本のように物事がスムーズに進まないことが本当に多く、渡航するまで気が抜けませんでした。

パリ第4大学の構内

### 留学中の生活

日本の場合と同様に、博士課程の学生は基本的に「博士号取得のための論文を執筆すること」が日々のタスクです。そのため、指導教授との定期的な面談以外の義務はほとんどなく、留学生活の大半は資料調査や学会発表、投稿論文の執筆などに費しました。とはいえ、修行僧のようにストイックな生活ばかりでは疲れますので、時には友達と出かけたり、ご飯を食べたり、フランス国内やヨーロッパの近隣諸国を旅行することもありました。生活習慣や考え方の違いなどはいつもありましたが、日本とは違う国に暮らすわけですから、「こういうものか」と受け入れることで気持ちが楽になることもあります。また、フランス語が母国語の友人たちには、書いたものを添削してもらうなど、様々に助けてもらいました。

### 研究と現場での経験

留学中に音楽活動の現場を多く見る機会があったこともあり、学位取得後はオーケストラの職員として働きながら、研究を続けました。2020年4月からは留学中に得た高度な専門性を踏まえ、大学講師として、音楽だけでなくバレエ史の教育・研究を行っています。

### 次のステップへの力に

研究の面で留学中に得たものが多いのは言わずもがなですが、留学中に遭遇した様々な困難や、スムーズに行かないことを乗り越えた経験は、大きな力と自信になっていると思います。また、大学の留学生への接し方やアドバイスの仕方なども、自分が留学した経験から工夫できることが多いと感じています。

### 留学先の選定は事前の調査をしっかりと

学位取得のために留学する方にとっては、指導の先生との関係性が大きな影響を持ちます。研究の方向性や専門性、十分な指導を受けられるかどうかを事前に調べ、場合によっては人間的な相性や将来のことも見据えた上で、自分にとって一番有益だと思われる留学先を選ぶ必要があるでしょう。

調査をしていた図書館の閲覧室

### 私のフランス語勉強法　「語学学習は筋トレのごとく」

私がフランス語の学習を本格的に始めたのは修士1年のときだったので、大学院で履修できる語学の授業のほかに、週 1 回、語学学校に通っていました。また、フランスのラジオ局が配信するポッドキャストを、リスニング強化のために聞いていました。語学の学習は筋トレと一緒なので、渡航前から言葉を使う環境を意識的に作るのが良いと思います。

小林（こばやし）　綾（あや）さん

**語学留学（ワーキングホリデー）**

**2011年3月**
都立福生高等学校 卒業
**2011年4月～2013年3月**
東京愛犬専門学校
**2017年5月～2018年5月**
ソウル市立大学　語学堂　ワーキングホリデー

**帰国後**

1年のワーキングホリデーを終え、**2018年5月**に帰国。
**2019年2月**　専門学校内にある海外留学生の入学募集を行う部署にて韓国を担当。
**2020年1月**　日本で有名なコーヒーチェーン店にて留学生と共にカフェを運営、現在に至る。

授業の一環でBBQ（真ん中でハートポーズ）

# 生きてて一番楽しかった1年間でした

## きっかけは KPOP☆

高校時代にKPOPを目にし、KPOPの魅力にどっぷりとハマってしまいました。大好きなアーティストもでき、それからはKPOP だけではなく彼らが話す韓国語にも興味が湧きました。「韓国語を話せるようになって彼らと話したい！」と思い、生の韓国語に触れたかったため留学を決意。語学堂＊にも通いながらアルバイトをしたり、交流会で友達を作ったり旅行に行ったり。自分の好きな国でこんなに色々な思い出を作る事が出来て毎日毎日が夢のようでした。時には家族や日本が恋しくなる時もありましたが、そんな時は韓国にいる友達と美味しい物を食べて元気を出していた記憶があります。
（＊大学付属の語学学校）

## できるだけ韓国に触れていたい

日本に帰国したら韓国や韓国語に関わる仕事に就きたかったので、韓国に関わる仕事を細かく調べました。やはり韓国語よりも英語や中国語を求められている事が多く見られましたが、その際目に止まったのが専門学校内にある留学生の入学をサポートする仕事でした。すぐに志望し、面接の際には自分自身も留学経験があるからこそ理解してあげられる部分を手助けしたい、と伝え自らの韓国語スキルもアピールしました。主に韓国を担当することになると、出張する可能性もあるが大丈夫か、と尋ねられましたがある程度の土地勘は既に身に付いていたので、その部分に関しても自信を持つことが出来ました。現在は留学生が多く在籍するカフェにて勤務をしていますが、その留学生の留学生活にほんの少しでも自分が関われている事を誇りに思います。自分の留学時代を思い出し、自分がされて嬉しかった事や感動した事を今度は私がしてあげたい、と思っています。

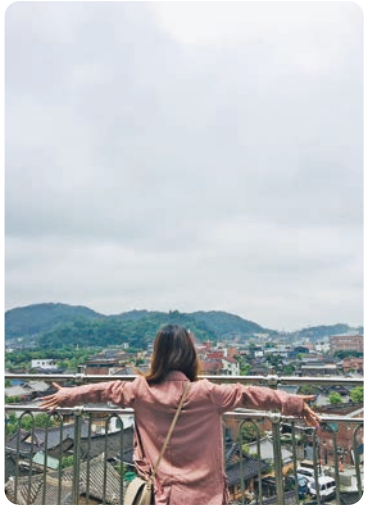
チマチョゴリを着て観光地巡り

## 失ったものなんて、ない！

大好きな国へ留学するとは言っても異国の地で一人で生活していく事への不安もあり、留学生活初日には韓国から姉に泣きながら電話をした事を今でも覚えています。しかし毎日様々な人と出会いながら過ごしていく内に、日本では味わった事のない解放感と、段々と自信がついている事に気が付きました。もちろん楽しい事ばかりではありませんが、大きな壁にぶつかっても自分一人で乗り越えられるような強さを身に付け、それが現在の生活の中でも生きていると感じます。とにかく得るものしかありませんでした！

## 悩むより、Go ！

私自身も初めはなかなか決意が出来ず悩む毎日でした。母からは「英語じゃなくていいの？将来役に立つの？」と現実的な言葉を投げかけられました。最終的には不安を抱えながらも姉に背中を押され決意しましたが、今思えばあんなにくよくよしていた事を情けなく思います。もちろん政治の問題や治安の問題で、周りが心配する気持ちも痛いほど分かります。しかし、人生は一度きりであり、行きたい！と思った時に実践しなければもうチャンスは来ないかも知れません。将来の役に立つ事も大切ですが、それよりかは自分自身の経験値を上げるため、また様々な人と出会い意見を交換する事で自身の世界を広げられるというのは今後の人生の大きな糧になると信じています。



韓国人の友達と旅行

**私の韓国語勉強法**

### 「こういう時こそSNSを活用しよう！」

留学に行く前までは独学で勉強をしていましたが、一人で勉強をしているとどうしても会話が上手く出来なかったり発音が上手に出来なかったため、言語交換アプリを使って様々な人とメッセージのやり取りをしました。韓国ドラマを見る事も重要ですが、私の中ではSNSを上手く活用しながら学習する方法が一番身に付いた気がします。